

ポストコロナ時代を見据えた九州・山口創生宣言

～「九州はひとつ」の思いを胸に～

新型コロナウイルス感染症については、各県民の新しい生活様式への対応等の取組により、感染拡大は落ち着きつつある。加えて、検査体制や医療提供体制の強化・充実などにより、感染拡大に備えた環境が整いつつあるが、秋冬のインフルエンザ流行期を控え、引き続き、感染拡大防止策に取り組んでいく必要がある。

一方、経済の再活性化に向けた取組として、「GoTo キャンペーン事業」の実施やイベント開催規模の拡大が進められている。さらに、様々な分野でコロナ禍を契機とした新たなサービス・事業の展開などの活動が広がりつつあり、景気は持ち直しの動きが見られる。

今回の新型コロナウイルス感染症は、「人を思う気持ちや地域の結びつきの高まり」、「集中から分散」といった価値観の変化をもたらし、デジタル化を加速させるなど、社会全体に新しい流れをもたらしている。

成長センターであるアジアに近い、合計特殊出生率が高い、人口移動が圏域内に留まる率が高いといった九州・山口の強みを活かしながら、このようなパラダイムシフトともいえるべき新しい流れをしっかりと受け止めた上で、今こそ官民一体となり、九州・山口創生の実現を揺るぎないものとするため、以下の取組を重点的に進めることを宣言する。

- 1 官民一体となった経済活性化に繋がる取組
 - ・新しい生活様式を見据えた事業展開に挑戦する事業者への支援
 - ・生産活動の国内回帰に向けた取組への支援
 - ・インバウンド需要回復時を見据えた取組の推進
- 2 一極集中から地方への分散に向けた取組
 - ・地方回帰機運の高まりを捉えた魅力づくりと発信
 - ・リモートワーク・ワーケーションなど地方への新たな人の流れの創出
 - ・移住定住促進の強化
 - ・人材確保の強化
- 3 分散型社会を支える基盤づくり
 - ・デジタル・トランスフォーメーションの推進
 - ・遠隔教育・医療、リモートワーク等の推進
 - ・人やモノの移動を容易とする地方創生回廊の構築

令和2年10月30日

九州地域戦略会議 共同議長 広瀬 勝貞
共同議長 麻生 泰